

医工連携の過去と未来 科学技術の動向とロボティクスの将来

*Evolution of MedTech Collaboration:
Scientific Trends and Emerging Robotic Innovations*

小寺 秀俊先生

国際高等研究所 副所長・京都大学 名誉教授・大阪大学 特任教授



日時： 2025年9月12日（金）午後5時～午後6時半

場所： 神戸大学医学部 福利厚生施設 神緑会館記念ホールA

工学は「自然の現象・原理を研究し、それを応用して何かを生み出す研究分野の総称」と言えます。歴史的に見ても、工学と医学は密接に関係し、人・生命を理解すること、そして、そこで得た知見をもとに、機械を生み出す研究と開発がなされてきました。科学は元来1つの領域ですが、専門性によって分類され、今は総合科学と言われるように、多くの領域に和別れていますが、それらを総合した研究開発が現在では重要になっています。

特に、少子高齢化する今後の社会では、これまで以上に人への応用が重要になっています。Brain machine interfaceをはじめ、人を助ける機械としての装具類、さらには、人と会話するロボットシステム等、一見医療機には見えないものが今後、我々の側に、医療機器としてまた日常の健康機器として増えてきます。それを支えるAIやセンサーシステムの研究開発も盛んに行われています。

これまでの歴史を少し振り返り、今後の医療機器に用いられる技術や将来の姿を議論できればと思います。